

どうなる、どうする日本の食シンポジウムin多摩

ひろがれ「弁当の日」

2001年に香川県の滝宮小学校から始まった「弁当の日」。中学校や高校、大学、職場へと広がっています。今年1月には九州でこの活動を精力的に展開しているお弁

当の日軍団が東京大学を会場に「どうなる、どうする日本の食シンポジウム in 東京 ひろがれ弁当の日」というシンポジウムを開催し、「弁当の日」の楽しさや教育力を熱烈に伝え、日本の食の問題を考えるヒントを与えてくれました。今回、この日のメインのスピーカーであった内田美智子さん（助産師）と大学として最初に「弁当の日」の活動を始めた九州大学農学部佐藤剛史先生を多摩にお迎えして、これまでの実践や全国での広がりについてお話をしていただき、食や農について皆さんと一緒に考えたいと思っています。

「食育」に関心をお持ちの方、「お弁当作り」に関わる方、皆さんの参加をお待ちしております。

会期・会場

2009年4月9日(木) 13:00～16:00

ベルブ永山 東京都多摩市永山1-5

<http://www.city.tama.lg.jp/shisetsu/004189.html>

基調講演：内田美智子（助産師）

「食卓から始まる生教育」

講演：佐藤剛史（九州大学大学院農学研究院助教）

「ひろがる弁当の日」

事例報告：藤田智（恵泉女学園大学准教授）

「園芸の有する教育的可能性」

クロストーク：コーディネーター 佐藤剛史

「ひろがれ弁当の日」



参加費無料

プログラムの詳細は恵泉女学園大学HPから

申込・問合せ先

恵泉女学園大学教育研究支援センター

電話：042-376-8339

FAX：042-376-8218

裏面に記入して、

上記までFAXまたは郵送してください。

恵泉女学園大学では全学生がキャンパスに隣接する教育農場で有機栽培による野菜作りや花作りを体験します。作った野菜は各自自宅に持ち帰り、調理して食べています。そんな「生活園芸」の活動は文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」に選定され、これを機会に昨年度より食育活動の一環として「弁当の日」を始めています。

どうなる、どうする日本の食シンポジウムin多摩

参 加 申 込 書

Fax:042-376-8218

恵泉女学園大学教育研究支援センター

2009年4月9日 開催のシンポジウムへの参加を申し込みます。

氏 名	
住 所	〒 市 ・ 区
連絡先	電話番号・e-mail など
恵泉からの ご案内	恵泉での生活園芸や食育に関する活動のご案内を希望されますか？ 希望する 希望しない

この申込書に含まれる個人情報は本件の連絡の際にのみ利用し、今後の活動の案内を希望する方以外の情報は本件終了後、速やかに処分いたします。また、情報を保有中は大学の管理規程に従い、注意深く取り扱います。

佐藤剛史先生

九州大学大学院農学研究院助教、農学博士。専門は環境経済学。

学生時代に、NPO 法人環境創造舎を立ち上げ、代表理事に就任。里山再生活動、生物多様性保全活動、市民参加型のまちづくり、食育などの事業・活動を展開。NPOと行政との協働事業、企業との協同による「飲めば飲むほど緑が増える『九州大吟醸』」など、そのアイデアと先進性が高い評価を受けている。

先生の活動について詳しくは、先生のブログへ <http://d.hatena.ne.jp/kab-log/>

内田美智子先生

助産師。内田産婦人科医院に勤務。

夫は同医院院長。同院内で子育て支援の幼児クラブ「U 遊キッズ」を主宰。

思春期保健相談士として思春期の子どもたちの悩みなどを聞く。

九州思春期研究会事務局長、福岡県子育てアドバイザー、福岡県社会教育委員。

著書に『ここー食卓から始まる生教育』（西日本新聞社）。「生」「性」「いのち」「食」をテーマに全国で講演活動を展開。